

本学所蔵「マルサス文書」閲覧のために、フランス・レユニオン大学からマルサス研究者であるクリストフ・デポルテール先生がお越しになりました。

■ はじめに

トマス・ロバート・マルサスは、『人口論』（1798年、第2版1803年）で有名な19世紀イギリスを代表する経済学者です。この本のなかでマルサスは「食べ物の生産は等差級数的、つまり足し算でしか増えないけれども、人口は等比級数的、つまりかけ算で増えてしまう。食べ物を増やすよりも人口が増えるスピードのほうがはるかに速い。だから人々は飢え・貧困・犯罪から逃れられないかもしれない。食糧資源の問題は人類の生存のために非常に重要だ」という「人口の原理」を史上初めて理論的にあきらかにしました。

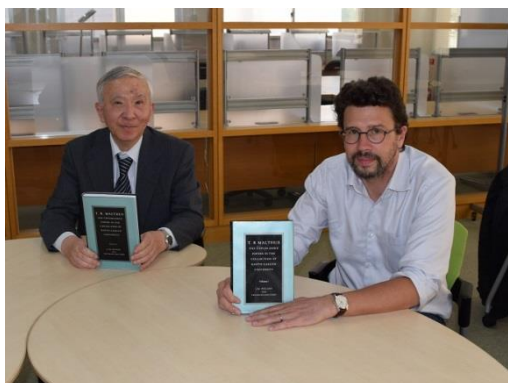
また他方で、経済現象は供給よりもむしろ需要に注目すべきだというマルサスの考え方も斬新でした。マルサスのこうした指摘は、のちにマクロ経済学の生みの親であるケインズの「有効需要の原理」にも大きな影響をあたえました。

さて本学の松平記念図書館には、マルサスの貴重な自筆文書、いわゆる「マルサス文書」がおさめられています。2019年3月12日（火）、「マルサス文書」を閲覧するために、インド洋にあるフランス領のレユニオン島にあるレユニオン大学から、クリストフ・デポルテール（Christophe DEPOORTERE）教授が、大東文化大学の竹永進教授とともに、はるばるお越しになりました。

お二人がマルサス文書を読むためにお越しになった理由は次の通りです。それは「マルサス文書」の中に、マルサスのライバルであり、古典派経済学のもう一方の巨人であるデヴィッド・リカードの手稿が含まれているかもしれない。このことを「マルサス文書」の原本を読み、ぜひ確認したかった」からでした。

もしもこの新発見がたしかならば、経済学の歴史上、大発見かもしれません。ふだん「マルサス文書」は非公開なのですが、学術上の新発見に貢献できる可能性があるために、今回お二人に特別に閲覧していただきました。

ここからはその時のインタビューの様様をご紹介します。



↑ デポルテール先生、竹永先生



↑ 両先生と図書館館長 羽田先生

■ デポルテール先生へのインタビュー

Q: 「マルサス文書」の原本を観た感想は？

A: 私はこれまでイギリスの大英図書館やアメリカのニューヨークのモルガンライブラリー、フランスのパリ新国立図書館、イタリアのフィレンツェ国立中央図書館のなどで、歴史上の重要人物の貴重な直筆原稿を観るチャンスを得てきました。今回、関東学園大学の松平記念図書館で「マルサス文書」を手にとって読むことができ、このうえなく興奮しています。というのも、新発見がありそうだからです。

Q: どんな発見がありそうなのですか？

A: 「マルサス文書」のなかに、マルサス本人だけでなく、マルサスのライバルであるリカードのメモとみられる筆跡を確認することができました。マルサスとリカードはお互いに文通をしていた間柄ですが、今回「マルサス文書」をじっくり読んだことで、「マルサス文書」のなかにマルサスとリカード二人の筆跡があることがわかりました。

Q: 最後にメッセージをお願いします。

A: 「マルサス文書」を閲覧できる機会をいただき、とても感謝しています。このたびの発見にもとづく内容の論文を、1-2年の間にまとめて学会誌で発表するつもりです。

・ありがとうございます！ デポルテール先生のご論文の発表を楽しみにしています！

■ あとがき

先でご紹介したとおり、古典派経済学の二大巨頭であるリカードとマルサスの直筆メモが「マルサス文書」内に確認され、文面上で彼らが相まみえているばあいは、経済学史上とても意義深い新発見となる可能性があります。

リカードとマルサスの世界的な研究者であるデポルテール先生が、一連の研究と分析にかける情熱が私たちにもひしひしと伝わってきました。デポルテール先生、竹永先生、お忙しいところをインタビューにお答えくださり、ありがとうございます。今回の機会を本学学生の学びにいかしてまいります。